

平成 26 年度 上 半期 指定管理者管理運営状況シート

●施設の概要

施設名	本郷児童センター	所管課	福祉部子ども家庭課
所在地	岐阜市青柳町5丁目24番地1		
指定管理者名	社会福祉法人 岐阜市社会福祉事業団		
指定期間	平成24年4月1日～平成29年3月31日まで		
選定方法	<input checked="" type="checkbox"/> 公募 <input type="checkbox"/> 非公募		
料金制	<input type="checkbox"/> 使用料 <input type="checkbox"/> 利用料金 <input checked="" type="checkbox"/> 料金徴収なし		
指定管理委託料(年額)	14,861,828円		
施設の設置目的	児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進し、又は情操を豊かにすることを目的とする。		
施設概要	◇構造:鉄骨造平屋建 ◇敷地面積:1,468.33㎡ ◇延床面積:488.78㎡ ◇施設内容:遊戯室、幼児室、図書学習室兼集会室、おもちゃ図書館、事務室、駐車場		

●利用状況

		H26 上半期	H25 下半期	H25 上半期	H24 下半期	H24 上半期
利用者数 (単位:人)	来館者数	11,515	9,779	11,627	10,937	12,377
	移動児童館利用者数	330	504	476	575	411
各室稼働 状況	移動児童館実施回数(単位:回)	11	15	13	17	18
	開館日数(単位:日)	156	151	156	151	157

●業務の履行確認

区分	確認事項	履行状況
利用者サービス	①開館日・開館時間の遵守 ②適切な人員配置 ③広報の方策 ④苦情への対応 ⑤仕様書、事業計画書に基づく事業の実施	①、⑤計画どおり実施。 ②所長(常勤)、常勤職員2人(児童厚生員所長含め3人)。 ③センター便り、幼児センター便りの発行・配布、行事案内ポスター掲示、幼児クラブの案内掲示、行事ポスター掲示、児童館ホームページ掲載。ぶりがネットへの登録。 ④苦情受付箱を常設。苦情・クレームについてはマニュアルに従って対応。アンケート調査結果は館内に掲示するとともに印刷して設置。
自主事業・提案事業	—	—
施設管理	①施設設備の保守点検の実施(仕様書別記2参照) ②施設の衛生管理に対する配慮、快適に利用できる状態の保持 ③省エネルギー並びに環境への負荷の軽減に努めること ④施設・設備・備品等の維持管理	①、④適切に実施。 ②就労促進事業施設清掃班による清掃を実施。 ③使用していない部屋の消灯、エアコンの適正温度の設定等による節電を実施。節水の実施。事業において廃材の再利用に努めた。 ④おもちゃ病院のボランティアによる定期的なおもちゃの修理。
施設修繕	下記の観点からの修繕実施状況 ①迅速な修繕の実施 ②指定管理者のノウハウを生かした修繕・整備	②大規模な修繕については指定管理者及び岐阜市に要望を提出。
危機管理・法令遵守	①個人情報の保護 ②非常時の対応策 ③関係法令の遵守	①、②、③マニュアル等に沿って適切に実施。 ②消防訓練を1回実施。

●利用者評価

利用者アンケートの実施状況	平成26年7月9日～9月12日に幼児クラブ参加の保護者53名にアンケートを実施。 回答数53人(回収率100%)
利用者アンケートの実施結果	○職員について ・あいさつ 満足83%、ほぼ満足17% ・言葉遣い 満足87%、ほぼ満足13% ・対応 満足85%、ほぼ満足11%、普通4% ○施設について ・整理整頓 満足77%、ほぼ満足21%、普通2% ・使いやすさ 満足72%、ほぼ満足26%、普通2%
利用者からの要望・苦情と対処・改善	要望⇒回答 ・水遊びがもう少し回数があると良い⇒7～8月の夏休みや9月にも水遊びを計画していたのですが、雨の日が多く、残暑も厳しくなかったため、実施できる日が少なくなってしまい申し訳ありませんでした。 ・走り回る子が近くにいたのが少し心配でした(0歳のひろば)⇒申し訳ありません。職員が走り回る子のお母さんやお子さんに声をかけ、危なくないようお願いをするとともに、できるだけ近くに職員がつくようにします。 ・月1回の開催の頻度を増やしてほしい(0歳のひろば)⇒登録制のクラブや他の自由参加のひろばなどがあり、回数を増やすことができません。申し訳ありません。

●指定管理者の選定基準に基づく評価

区分	選定基準	評価項目	具体的な業務要求水準	評価		
				指定管理者	所管課	評価委員会
公平性 透明性	住民の平等利用が確保されること	平等利用を確保するための体制、モニタリングなど	・利用者アンケートの実施 ・運営委員会の開催	A	A	A
		情報公開、広報の方策	・利用者アンケート結果の公表(館内掲示など) ・広範で適切な広報活動の実施(ホームページなど)	A	A	A
		区分評価			A	
効果性	事業計画書の内容が、対象施設の効用(設置目的)を最大限発揮するものであること	既存業務の改善、工夫又は新規事業等の実施	・業務改善や工夫又は新規事業(行事)等の実施	A	A	A
		利用者ニーズ、苦情などの把握方法及び対応方策など	・利用者アンケートの実施 ・苦情・クレームへの着実な対応	A	A	A
		利用者に対するサービス向上の方策(窓口対応、プロモーション、設備の整備など)	・移動児童館の実施(仕様書別記3参照) ・利用者へのサービス向上に繋がる方策の実施	A	A	A
		利用促進、利用者増の方策	・利用促進や利用者増に繋がる方策の実施	A	A	A
		サービスの質を確保するための体制、モニタリングなど	・事務分掌等に基づく事務分担の実施	A	A	A
		施設の効用(設置目的)を最大限発揮できるスタッフの配置	・児童厚生員を2人以上、その他の職員(施設が児童センターの場合は体育指導員)を1人以上配置(このうち最低1人は常勤職員とすること)	A	A	A
区分評価			A			
効率性	事業計画書の内容が、管理経費の削減が図られるものであること	指定管理経費の妥当性(収支計画の妥当性など)	・収支計画に沿った運営(予算書に沿った執行)	A	A	A
		管理経費削減の具体的方策	・管理経費削減に繋がる方策の実施(リサイクルやリユース、節水・節電など)	A	A	A
		区分評価			A	
安定性 安全性	事業計画書に沿った管理を安定して行う物的能力、人的能力を有していること	組織及びスタッフ(採用予定者も含む)の経歴、保有する資格、ノウハウ、専門知識等	・児童厚生員を2人以上、その他の職員(施設が児童センターの場合は体育指導員)を1人以上配置(このうち最低1人は常勤職員とすること)	A	A	A
		スタッフ(採用予定者も含む)の管理、監督体制	・事務分掌等に基づく管理・監督体制並びに事務分担の実施	A	A	A
		スタッフ(採用予定者も含む)の人材育成の方策	・職員の資質向上を図る研修の実施又は研修会への参加	A	A	A
		リスクへの対応方策(防止策、非常時の対応マニュアルなど)	・危機管理(リスク)や非常時対応のマニュアルの整備 ・リスク防止策の実践	A	A	A
		区分評価			A	

区分	選定基準	評価項目	具体的な業務要求水準	評価		
				指定管理者	所管課	評価委員会
貢献性	事業計画書の内容が、岐阜市あるいは施設がある特定の地域(以下「地元」という。)の振興、活性化などに貢献できるものであること	地元の法人その他の団体の育成(一部業務の再委託先)、地元住民の活用(雇用又はボランティア等)	・地元の諸団体との連携、交流 ・地元の法人その他団体の育成又は地元住民・高齢者・障がい者等の活用	A	S	S
		地元での社会活動等への参加	・地元の振興、活性化などに貢献できる社会活動等への参加(地元行事への参加)又は地元の団体・住民との協働事業等の実施	A	A	A
		区分評価			S	

●指定管理者の取組みに対する自己評価(良否、課題と解決策など)

今期の取組みに対する評価	<input type="checkbox"/> 事業実施回数の増加と継続的な実施 健全育成事業、地域組織活動支援事業の継続的な実施と、子育て支援事業を、昨年度48回→今年度70回と利用促進につながるよう回数を増やした。また中高生も参加できる事業(卓球やビリヤード大会など)を月2回以上実施することで、昨年度より小学生は300名、その他の児童は130名利用が増加した。 <input type="checkbox"/> ボランティア募集について 明郷・岐阜・木之本小学校高学年、岐阜中央中学校や岐阜高校に呼びかけ募集を継続的に行った。地域の方にボランティアの活躍を認めてもらえる事業(夏まつりや野菜収穫)を実施した。 <input type="checkbox"/> 地域とのつながり 地元住民から野菜の苗やおりがみの作品などを譲り受け、児童センター事業に有効に活用した。青少年育成市民会議の親子ふれあい教室に担当するすべての校区にでかけ児童センターの活動のPRをした。
前回までの意見を踏まえた取組み状況	<input type="checkbox"/> 岐阜市社会福祉事業団内の会議、研修で、ノウハウ、情報の共有化や意思統一などを行った。 <input type="checkbox"/> 岐阜市社会福祉事業団のホームページからも本郷児童センターの毎月の便りが見られるようになり、より広く利用者へ広報できるようになった。ホームページの定期的な更新と状況に合わせた更新により、事業内容など利用者に詳しくわかるようにしたことで、便利になったとの声も聞かれた。 <input type="checkbox"/> 各校区の青少年育成市民会議主催の親子ふれあい教室や移動児童館で児童センター案内を配布し、事業内容を説明し、利用促進を図った。
今後の取組み	<input type="checkbox"/> 本郷児童センターの事業を今後も発展をさせるため、地域の方や母親クラブ、NPOと協力して子育て支援や児童健全育成を行っていく。 <input type="checkbox"/> ボランティアの受け入れも継続して行い、児童センターとしての事業に不足する部分がないように協力をしていただく。

●所管課の意見

<p>毎月の「おたより」の毎月発行・配布のほか、公民館や保健センターへ幼児対象事業の案内の配置、ホームページの更新、新聞社や地域情報紙の取材に応じるなど、積極的なPRに努めている。</p> <p>幼児クラブなど、主に幼児と母親を対象とした事業を昨年度の48回から70回に増加することで利用促進につながるよう努めており、今年度からは、新たに母親を対象とした「mama'sクラフト」を開催し、手芸などを行っている。</p> <p>職員が遊び相手になったり、パズルを購入するなど、小学生が1人でも遊びやすい環境をつくることにより、小学生の利用者が300人増加。また、中高生が参加できる事業を毎月2回行うことで、その他の児童の利用者が130人増加するなど、利用者の増加につながるような積極的な活動が見られる。</p> <p>小、中、高校生へのボランティア募集を積極的に行い、夏休みに高校生による卓球などの小学生の遊び相手ボランティアや高校の教員による小中学生を対象とした卓球教室を開催するなど、地域団体との交流、連携を図っている。</p> <p>職員体制や経営状況については、問題なく運営が行われている。</p>
--

●指定管理者評価委員会の意見

<p>利用者アンケートの結果を分析し、さらなる満足度の向上に努めていただきたい。</p> <p>児童センターのある地区以外の学校とも連携を深めていただきたい。</p> <p>事業計画書どおりに適正に管理運営されており、良好と認められる。</p>
--